

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200193		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート花島		
所在地	千葉県千葉市花見川区花島町481-1		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	令和2年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年5月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スローガンである輪(和)を大切にお客様、職員とともに楽しく笑顔で過ごせる環境を目指しています。毎月のレクリエーションを企画してお客様と一緒に作業を行い残存能力の活用、自立支援はもちろんのこと、お客様にも役割を持っていただき やりがいを感じて頂いています。お客様ご自身が買い物に出かけるといった外出支援にも力を入れています。毎日の体操と散歩を行い健康管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは利用者に楽しく笑顔で過ごしてもらうことを大切にしている。昼食の準備や後片付け、居室の掃除などをしてもらい、役割のある生活を支援している。地域との関係づくりにも力を入れ、近くの公園への日々の散歩や、地域の音楽会や祭りへの参加、小学生と昔の遊びなどで交流している。年度末からは新型コロナウイルスの感染予防のため外出を控え、ホーム内でのレクリエーションを多くしており、手作りマスクを制作し、近くの施設にも送っている。また、環境整備にも取り組み、居室やリビングなど共有スペースは清潔に心がけ、安心して過ごせるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の社是、経営理念、心得を掲示し、会議前に唱和しています。スローガン「みんなで輪になり 楽しく安心して過ごせるような環境を目指しています」	会社の社是や経営理念、心得のほかホーム独自のスローガンを事務所や廊下、スタッフルームに掲示している。社是や理念は会議前に唱和したり、カンファレンスではスローガンに沿った利用者支援となるよう話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日々のレクリエーションで、近隣の花島公園へ散歩、買い物に行かれたり、地域の催し物にも積極的に参加しています。	自治会に加入し、地域の音楽会や区民祭りなどに参加している。散歩では近くの公園に行ったり、買い物に出かけている。また、地域の小学校に出向き昔の遊びを教えたり、一緒に楽しむなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催して報告。小学校との交流や、地域包括や町内会との連携をとっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内でお客様の現状報告、地域の皆様との意見交換、ご提案事項の検討、事故報告、ヒヤリハット報告書を行っています。	地域包括支援センター職員、小学校長、調剤薬局員、歯科衛生士、家族などの参加で3か月に1回開催している。ホームの状況や身体拘束適正化の取り組みなどを報告し、参加者と意見交換をおこなっている。	運営推進会議の議事録は参加しない家族も含め送付し、ホームの取り組みを伝えることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政判断が必要な案件は市高齢施設課、介護保険課に問い合わせています。ケアに関する質問は、あんしんケアセンターへ問い合わせを行っています。	市の担当課と新型コロナウイルス感染症に伴う対応などについて連絡を取っている。地域包括支援センター職員には運営推進会議に出席してもらったり、困難事例の相談に乗ってもらうなど連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束に関する研修を社内研修で行っています。日々のケアの中でも職員に周知させています。	身体拘束適正化の指針があり、委員会を設置して、話し合った内容は運営推進会議で報告している。職員研修も年2回実施して意識付けをしている。玄関は施錠しているが、利用者が外に出たいと希望すれば職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて学ぶ機会をもち、定期的なスタッフ面談で、状況確認やストレスチェックをおこなっています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面の読み合わせでのご確認を行い、ご質問を受けご理解をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施しており、要望、意見を真摯に受け止め反映させるよう努力しています。電話連絡や来訪時にご意見を伺っています。	利用者の意向は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来訪時に聞き取ったりしている。ホームは年1回家族アンケートを実施しており、意見などに対し、どのように改善するか話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の実施、日々の申し送りでの意見交換、3か月毎の個人面談を行っています。	職員の意見等は毎月の職員会議や、3か月ごとの個人面談で聞く機会を設けている。朝夕の申し送りでも意見交換などを行っている。出された意見については反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3か月毎の個人面談、半年毎の人事考課制度で、向上心を持って働けるよう 目標設定を共に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修で認知症介護について理念を学び、現場での経験を積んでもらっています。また、会議、研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業を兼ねて同業者との情報交換等を行っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に面談を行い、ご本人様、ご家族様が安心して暮らせるよう直接ご意見を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス、契約の内容に誤解のないよう配慮しながら関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、当施設でのサービスを希望される段階ではない場合は あんしんケアセンターに相談を引継ぎます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要なタイミングを見極め 必要に応じて介助・声かけをおこなっています。掃除や食事の準備をしたり日常生活を共に行うことで信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に気軽にお越し頂ける環境作りを目指しています。日々のご様子をお伝えし行事への参加をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	築いてきた交流を閉ざさない様、ご家族との外出、外泊の機会が増えるよう働きかけています。	友人が訪ねて来たり、家族と一緒に墓参りや外食に行く利用者もいる。ホームでは、電話の取次ぎや手紙の投函などを支援し、馴染みの人や場所との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員に日々の様子を報告してもらい把握しています。お客様同士が交流できる場所や共同作業を通じより良い関係が気付けるよう働きかけています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も気軽に連絡いただけるような声かけをしています。その後の様子などを伺い、必要に応じて相談、支援ができるよう関わりを持たせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限りご本人の意向を尊重できるようなケアプランを作成し日々のケアに活用しています。	利用者の思いや希望などは日常のケアの中で聞いたり、コミュニケーションが難しい場合は家族から情報を得るようにしている。聞き取った内容は個人日誌や支援経過に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族関係者から今までの生活歴を伺い従来の生活から可能なかぎりずれないように努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日頃の変化に注意を払い職員や家族を踏まえた情報交換ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、提携医療機関、ケアマネ、職員の意向、意見を取りいれケアプランを作成しより良い生活を送っていただけるよう心掛けています。	介護計画は、本人や家族の意向、職員や往診医の意見と日々の記録をもとに、計画作成者担当者が作成している。短期目標を6か月に設定し、期間ごとに見直している。また、モニタリングは毎月おこない、介護計画に沿ったケアが実践されているかを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個人日誌、業務日誌に記録をしています。申し送り、会議に報告して情報共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り要望に応じられるよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に小学校、公園があり、地域の行事には積極的に参加させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を図っています。月2回往診のほか、必要なケースにおいては眼科、精神科、皮膚科の往診 訪問歯科の診療が受けられます。ご家族の希望される病院にかかられているお客様もいます。	ホームの協力医療機関をかかりつけ医とする利用者が多いが、従来のかかりつけ医にかかる人もおり、通院は家族が対応している。協力医療機関の往診医は24時間のオンコール体制で対応してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関とこまめに連絡をとり、日常の健康管理、医療活用の支援をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、看護師に情報提供を行っています。また、情報収集も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時にご説明をさせていただき、ご希望にできるだけ添えるよう協力医療機関とも密に連絡をとっています。	重度化した場合の対応や看取りに関する指針は整備されており、契約時に説明している。終末期に入った場合は、家族や主治医、看護師などと話し合うことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で急変や事故発生時の対応の仕方などを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練、消防訓練の実施 夜間を想定した地震訓練を実施 地域との連携も徐々に取れてきています。	今年度は日中の通報訓練を実施した。夜間の訓練は話し合いに留まっている。地域の避難所までは遠いため、ホームの駐車場を避難場所にし、近隣に居住する職員が駆けつけることになっている。また、緊急時用に利用者の状態を記録した書類を準備している。	災害はいつ起こるか分からないことから、夜間想定訓練の実施が期待される。防災頭巾などを準備したり、近隣住民の協力が得られるような体制作りにも期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の尊厳を尊重し、プライドを傷つけないように努め、特に羞恥心に配慮したサービスが行えるよう取り組んでいます。	ホームでは言葉遣いやプライバシーの保護に関する研修をおこない、利用者を尊重した対応を心掛けている。利用者は「さんづけ」で呼び、トイレ誘導時には耳元で声掛けする、居室に入る際には了解を得て入室するなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、出来る事、行きたい場所をお客様と一緒に考え、自己決定ができるようなかかわり方を考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースにあわせた 食事や入浴時間に変更したり 急に外出したい場合など対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや衣類の自己決定や必要な助言、介助を行っています。訪問理容の利用		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様のリクエストをメニューに取り入れています。食事作り、後片付けなどお手伝いしてもらっています。	食事の提供は朝夕は業者が作成した献立であるが、昼食は手作りとしている。利用者の希望を入れたり、行事食や外食、誕生会には手作りケーキなどで楽しんでいる。食事の時間はBGMを流し、職員も一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を提供させていただいています。水分量のチェックや管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施 就寝前に義歯洗浄 訪問歯科の利用をおこなっています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の確認、排泄パターンの把握で適切なトイレ誘導を行えるよう取り組んでいます。	日中はトイレでの排泄を支援しており、一人ひとりの排泄パターンに沿って声かけ誘導をしている。病院退院後におむつだった利用者がリハビリパンツに改善するなど、自立に向けた支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動などで積極的に体を動かしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はありますが、当日の体調や気分に合わせて随意時変更し お客様の意向に沿い入浴していただいております。	お風呂はほぼ毎日沸かし、利用者には週2回入浴できるよう支援している。できる限り本人の希望に沿うよう、時間帯なども考慮している。入浴は利用者と職員が会話をする時間になっている。また、季節のゆず湯や入浴剤などで楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な睡眠、休息を取っていただけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様のお薬明細は事務所に閲覧できるよう保管されています。服薬マニュアルで誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割をもっていただき、散歩や買い物、カラオケ、外食会等で気分転換ができるよう取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣公園への散歩、買い物、外出レクを行っています。	天気の良い日は近隣の公園に散歩に出掛けている。また、季節の花見やコンビニエンスストアに買い物に行くこともある。なかには外に出たがらない利用者もあり、ベランダでの日光浴で外気に触れる機会を作っている。今後は車で遠出の外出も検討している。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	貴重品は事務所金庫で保管、お小遣いも金庫にてお預かりしご本人の希望で使われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば事務所内の電話をご利用いただいています。手紙も同様にお出ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔に努め湿度にも気を付けています。フロアに季節感を感じて頂けるよう装飾をお客様と共に創作しています。	食事の席は決まっているが、それ以外はソファや丸テーブルの椅子など、思い思いの場所で過ごしている。温度や湿度は天気の状態を判断し、居心地よく過ごせるよう設定している。フロアは季節を感じられるよう、職員と合作の作品をなどを飾るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置してくつろげてください。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に馴染みの物をご用意いただくよう説明させていただいています。お客様が居心地よく過ごせるよう配慮しています。	各居室にはエアコン、クロゼットが設置されている。利用者はタンスや仏壇、写真など馴染みの物を持ってきている。清掃は毎日おこない、できる利用者には手伝ってもらっている。また、天気の良い日にはベランダに布団を干すなど、気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は手すり、バリアフリーで安全確保を行い残存機能を活かし自立した生活を送れるよう支援を行っています。		

【評価機関】